

プロジェクトY

－ホタルの自然繁殖を目指して－

代表者 萩野詩季（共獣B 3年）
構成員 正木陽登（農学B 3年） 豊田実歩（教育B 2年） 南里康隆（農学B 2年）
岡崎花菜（共獣B 2年） 牧野友樹（理学B 2年）
竹本眞規（人文B 2年）

1. プロジェクト概要

当プロジェクトは3年計画で進めます。今年度はその1年目でした。今年度の活動目標は「ホタル、ビオトープについて、正しい知識を身に付ける、地域との情報交換を行う」です。この1年間の活動を通して、メンバーがホタルの保護の仕方、ビオトープの管理の仕方についてより知識を身に付けることができました。また、今年学んだ成果を「ホタルの飼育・ビオトープの管理に関するマニュアル」に記録しました。

2. 目的

- ① 山口大学を含む平川地域を、ホタルの飛び交う環境にする
- ② 無理なく環境保全活動が行える仕組みづくりを作る

①に関してはホタルの飛翔数の増加を、②に関しては地域と協力しながら誰もが行える循環性を持つ環境保全活動を意味します。

3. 活動内容

3-1 全国ホタル研究会かつやま大会

6月21日～23日に福井県勝山市で行われた「全国ホタル研究会かつやま大会」へ参加しました。そこではホタル、ビオトープに関する研究をする全国の研究者の方の講演を聞き、ホタルに関して、ホタルが育つ環境に関して、ビオトープの維持の仕方に関して学ぶことができました。その後の懇親会では講演をしてくださった研究者



図1 全国ホタル研究会かつやま大会の様子

の方や、研究を聞きに来ておられたホタルに関する博識ある方と意見交換をすることができました。今まで自分達が行ってきたやり方が、本当に正しいのか考え、様々な状況下でホタルの保護活動を行う方々と情報交換をすることで、山口大学内では一体どういう形で保護すべきなのかを勉強することができました。

3-2 山口市「ふるさと伝承センター」へ見学

8月7日に「山口ふるさと伝承センター」へ見学に行きました。「山口ふるさと伝承センター」では山口市立大殿小学校の環境教育も兼ねて、保護活動を行っています。本格的な保護施設を実際に見ることで、今後ホタルを飼育する上で必要となるものを把握することができました。ここで学んだことを来年度生かし、より確実に、ホタルを飼育できる施設を準備するための必要物をリストアップすることができました。



図2 山口ふるさと伝承センターを見学したときの様子

3-3 板橋区ホタル生態環境館へ見学

11月16日に室内のビオトープにおいてホタルの飼育を行っている東京都にある「板橋区ホタル生態環境館」へ見学に行きました。大学内にあるホタル飼育部屋においてどのように維持管理していくかを学び、今後の参考としました（写真は公開禁止のため載せていません）。

3-4 ホタル飼育・ビオトープ管理マニュアルの作成

3月末にメンバーによって1年間学んだ内容をまとめ、ホタルの飼育とビオトープの管理に関するマニュアルを作成しました。このマニュアルを参考にし、来年度は実際に大学内でのホタルの保護活動を行っていきたいと思っています。

4. まとめ・来年度に向けて

今年は初期に計画していた内容が実行できた部分と、できなかった部分がありました。できなかった部分を反省し、来年度の計画を立てていきたいと思います。また、マニュアルに関してはこの1年間で繋がりができた知識のある方々に、完成したマニュアルデータを送り、添削していただき、来年度の活動結果と共に、再度作成したいと考えています。そして再来年度には、活動報告も兼ね、山口大学の学生や、平川地域の方々に再作成したマニュアルを公開し、我々の活動を知ってもらおうと同時に、ホタルが飛び交う山口の良さを改めて考えるきっかけとしたいと思います。